

義務教育課幼児教育班の取組

幼児教育班の【市町村幼児教育支援事業】をご紹介します。

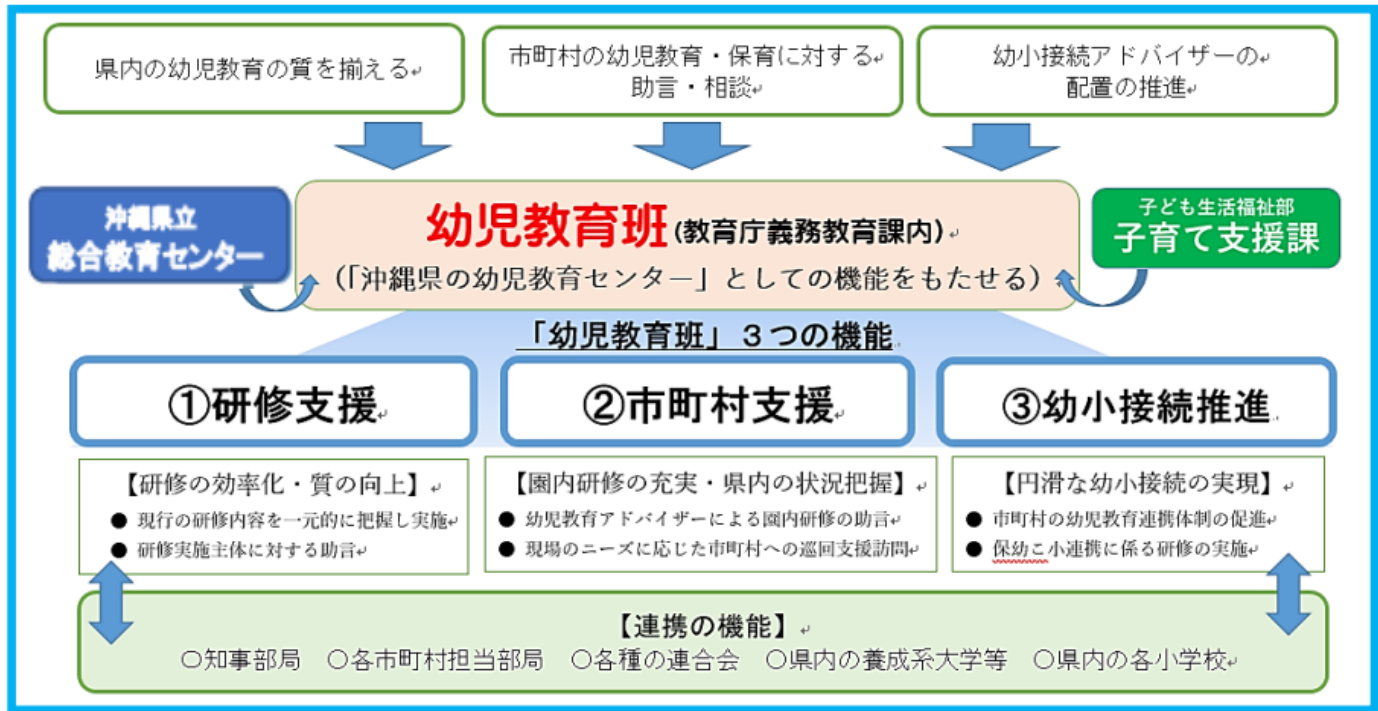
未来をつくる おきなわの子どもたち

～遊びで育む「黄金っ子」の体・心・知恵～



令和5年5月

沖縄県教育庁義務教育課



①研修支援：研修の効率化及び質の向上の取組として、県内の課題に応じた研修等を実施しています。

- ・法定研修（初任研・2年研・中堅研）
- ・幼児教育合同研修会
- ・保育士等キャリアアップ研修
- ・保育スキル向上研修 等

②市町村支援：園内研修の充実を図る取り組みとして、幼児教育アドバイザーなどによる研修会支援や園訪問支援を実施しています。

- ・市長村が主催する研修会の支援（講師やコーディネーターとして派遣）
- ・園の相談を直接受ける訪問支援（直接園を訪問しての支援）

③幼児教育と小学校との接続の推進：幼児教育施設と小学校との円滑な接続の実現の取り組みとして、連携や接続にかかる研修などを実施しています。

- ・研修会等において円滑な接続の意識の醸成や取り組み推進を図る
- ・沖縄県の架け橋プログラム推進の取組



【未来を担う子どもの健やかな成長】

子どもは沖縄県の未来を担う存在であり、すべての子どもの健やかな育ちと子育てを支えることは、その子ども自身と親の幸せに繋がり、沖縄の未来への投資ともなる、大変重要なものです。特に、乳幼児期は、心情、意欲、態度、基本的な生活習慣等、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる重要な時期です。このため、子どもの成長を一人一人の発達段階に応じ切れ目なく支援することとします。

黄金っ子応援プラン（第2期沖縄県子ども・子育て支援事業支援計画）より

遊びで育む 「黄金っ子」の

丈夫な心と体
〈ちゅーばー〉

子どもが夢中になって遊び込む保育

子どもの「やりたい」気持ちを叶え、豊かに育つ保育の実現

① 体を動かすこと大好き (心も体も健康な子ども)

身体を動かす遊びを通して、気持ち良さや楽しさを味わったり、色々な運動に自ら関わったり、挑戦しようという気持ちを持って、粘り強く取り組んだりするなど心も体も健康な子ども

② 人と関わること大好き (自分も友達も大切にしている子ども)

自分を認めてくれる愛情いっぱいの周りの大人に支えられながら、人を信頼する気持ちを育て、自分らしさを発揮できる遊びの中で、楽しい・嬉しい・悲しい・悔しい等の様々な感情を体験したり、友達の良さに気付いたりしながら、自分も友達も大切にしている子ども

③ 考えること大好き

(『やってみたい』という気持ちを持ち、遊びに夢中になる子ども)

周りの環境に興味や関心をもって自ら関わり、『やってみたい』という気持ちを持ち、遊びの世界を広げたり、『面白い』『次はこうしてみたい』『もっと面白くしたい』等、友達と夢を実現したりするなど、遊びを創造する子ども

④ おきなわ大好き (豊かな自然や文化と出会い、心を動かし表現する子ども)

身近な自然(木々・草花・風や雨・太陽・身近な生き物等)、音やリズム、地域の昔話やわらべ歌、地域の言葉や行事等、豊かな文化に出会い、不思議さや美しさ、心地よさを感じながら、心を動かしたり言葉や体で表現したりする等、心豊かな子ども



心

〈ちむぐる〉

考えること大好き

知恵
〈じんぶん〉

体を動かすこと大好き



おきなわ大好き



人と関わること大好き



子どもの「やりたい」と「やってみたい」を引き出し、 子どもの夢と保育者の願いを実現する保育の創造



— 子どもを観て 子どもを語り 子どもから学ぶ保育者—
「遊びは学び」

幼児教育ってすごい…
遊びや生活の中に、興味・関心をつなげる環境が用意され活動が展開されているんだね。

幼児期の子どもは「学びの芽生え」の時期といわれ、学ぶことを意識しているわけではなく、楽しいことや好きなことに集中することを通して様々なことを学んでいきます。

幼児教育の現場では、子どもの「やりたい！」が尊重され、遊ぶ（学ぶ）ことが保障されているんだよ。

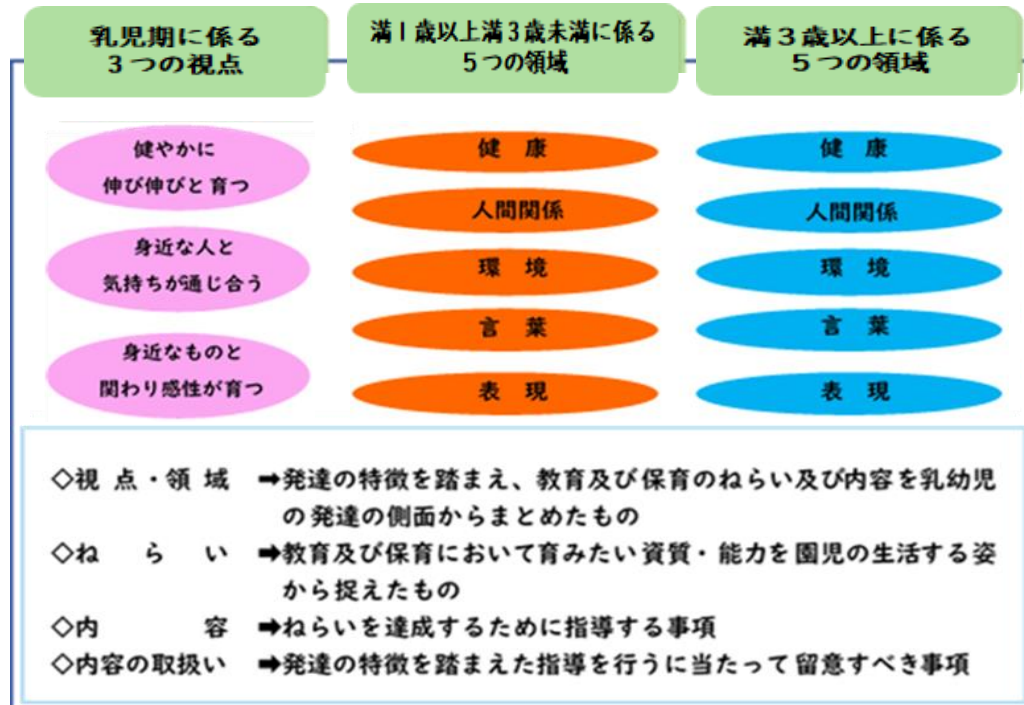
★幼児教育の基本★

幼児期に
ふさわしい生活

環境を通しての
総合的な指導

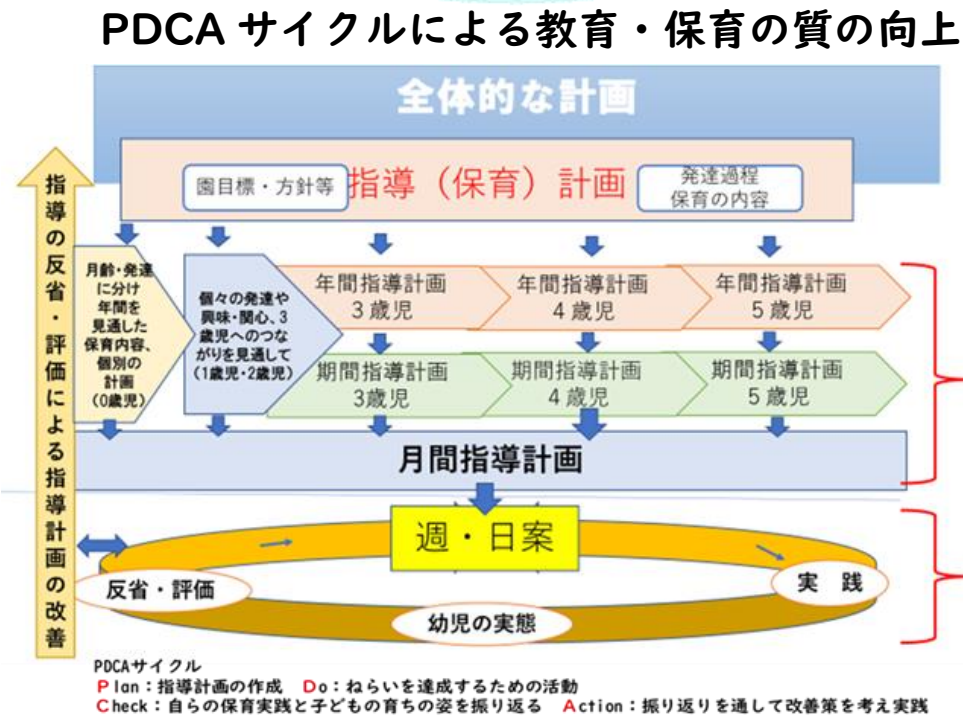
一人一人の
発達に応じた指導

乳児から幼児へ育ちのつながり
— 要領・指針に基づいた保育実践 —



保育の質の向上

— 主体的・対話的で深い学びの保育実践 —



関わる	興味・関心	あれ？ おもしろそう
考える	課題発見 思考力	なぜだろう？ 不思議だな？
試す	探究心 観察力	どうしてかな？ やってみよう
分かる	達成感 成就感	できた！ やっぱり！
工夫する	向上心 次への意欲	もっとこうしたい 次はこうしよう

《 発達や学びの連続性 》



0歳児
愛情豊かに応答的に関わる特定の大人とのスキンシップを喜び、泣く・笑うなどの表情の変化や、喃語（なんご）などで自分の欲求を表現します。身体面では、上下左右に動くものを追視したり、目の前のものをつかもうとしたり、玩具を手や口などで確かめたりしながら探索行動を行います。



1歳児
ひとりて歩くようになり、周囲の環境を積極的に探索します。親しい保育者には簡単な言葉で要求や思いを表現するようになりますが、知らない人に対しては人見知りもします。物を見立てて楽しむようになります。



2歳児
語彙が著しく増え、自分の意志や欲求を言葉で表出できるようになります。また、保育者や友達と関わりを持って遊ぶようになりますが、自我の芽生えにより自己主張が強くなり、イヤイヤと反抗することが増えます。



3歳児
「なぜ？」「どうして？」等を盛んに尋ね、身近な事象への興味・関心が高まる時期です。また、個々の遊びから保育者や友達と一緒に活動することが心地よくなり、見立て遊びなどを楽しむようになります。



4歳児
仲間意識が芽生え、友だちと誘い合って遊びますが、ぶつかり合いも増え葛藤体験をする時期です。また、自分のイメージしたことを実現するために、様々な素材や道具を使い実現しようとしています。



5歳児
自分の身の回りのことを自分から進んで行ったり、人の役に立つことを喜んでしながら、自分たちで生活を進めていけるようになります。また、友だちと一緒に、考えたり、工夫したりしながら共通の目的に向かって集団で活動することを楽しむことができるようになります。


幼児期から児童期へ育ちをつなぐ

～乳幼児期の質の高い教育・保育から児童期の学びへの接続～

架け橋プログラムの推進



遊び(学び)の中で、様々な経験や体験が繰り返され、人格形成につながるんだね。




総合


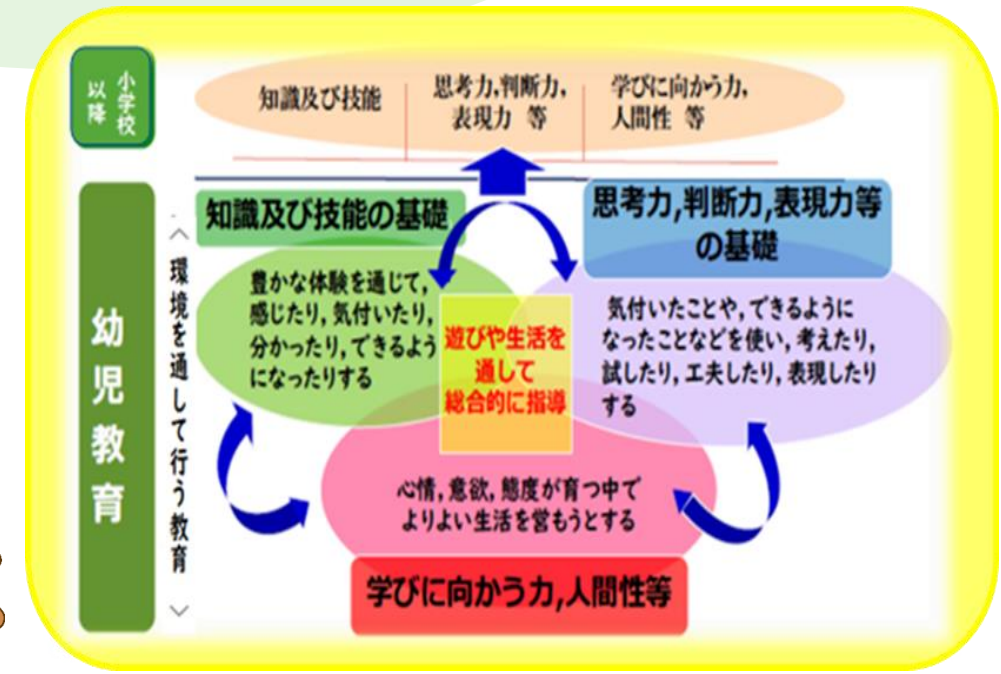


各教科学習



遊びを通じた総合的な学び

幼児教育で、「黄金っ子」の資質・能力が育まれ、未来につながる。うんうん。

幼児教育 要領・指針

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

★5つの領域のねらい及び内容に基づいて、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼児教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児期の終わりの具体的な姿であり、保育者等が指導を行う際に考慮するもの